生涯学習だより

問 教育課 生涯学習係 ☎(83)7021

町民大学（第1回）
“新NISA”で資産形成！入門から実践までの道のり

6月22日（土）開催の第1回町民大学では、今年から、非課税額が増額された新NISAについて、野村證券（株）の服部浩三さんに講演していただきました。

資産運用の基本は、①**分散投資**（国内と国外の株式と債券をバランスよく分散）、②**長期投資**（10年程度の長期的な保有）、③**積立投資**（同一の投資対象を一定額で定期的に）の3つであると説明がありました。参加者は、NISAの制度や運用方法、メリット、デメリットなどについて、熱心に聞き入っていました。

古文書講座（第1回）
江戸時代の飢饉と二宮金次郎

6月29日（土）開催の第1回古文書講座では、寄の虫沢地区の人々が二宮尊徳に宛てた古文書を県立公文書館の近藤絢音さんに読み説いていただきました。

原文から、天保の飢饉の際の町の状況を読み解き、虫沢地区の被害に応じた報徳金（尊徳の仕法による貸付金など）の一覧などを読みました。これは利息なしの5年返済で、尊徳の仕法独自の救済策だったとのことでした。家ごとの返済金の金額を記録した文書には、難を免れた家も返済を行ったとあり、尊徳の相互扶助の思想が当時受け入れられていたことがよくわかりました。参加者は、古の資料から多くのことを学びました。

松田文化財探訪
松田の災害史 その4

文化財保護委員 桐生 海正

宝永の富士山大噴火

元禄一六（1703）年の大地震は、なぜ大きな被害をもたらしたのに、忘れられてしまったのでしょうか。その要因の一つは元禄地震の四年後、さらに大きな災害がこの地域を襲ったからでした。宝永四（1707）年におこった富士山の大噴火です。富士山の大噴火は、貞観の大噴火（864年）以来、実に843年ぶりのことでした。

宝永噴火の特徴は、マグマの噴出はなく、大量の火山灰が周辺地域へ降り注いだことでした。偏西風にのった火山灰は当時小田原藩領だった駿東郡や足柄上郡に多く降り積もりました。この時、遠く離れた江戸でも火山灰を観測しています。

松田町域も火山灰の被害を受けました。寄地区の萱沼村では、一尺五寸（約45㎝）の火山灰が積もり、その掘り返しには、6万6280人が必要だと見積もっています（安藤家文書、冊水利・普請1）。これは当時の萱沼村村民の約318倍に当たる数です。同じく寄地区の中山村の年貢割付状（川口家文書）を分析すると、噴火後、納めるべき年貢高は従来の約四分の一に減少したことがわかります。そこから徐々に復興し、元の年貢高に戻るのは約100年後の文化六（1809）年を待たなければなりませんでした。

中山村の年貢高の変遷
（年貢1～131の内、一部を利用）